



# AA日本ニューズレター

〒100-91  
東京都中央郵便局  
私書箱 916

AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス TEL 03-3590-5377  
〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橋ビル 9F FAX 03-3590-5419

No.49

## 第13回ワールドサービスミーティングを終えて

### WSM前期評議員 岡崎 直人

ワールドサービスミーティングにノン・アルコール（アルコールの評議員を「クラスB」と呼ぶのに対し、「クラスA」と呼ばれます）前期評議員として参加させていただきました（もうひとつ仕入れてきた言い方は「AAの友人」。これから使わせていただきます）。

今回の、第13回ワールドサービスミーティングは、「基本に帰ろう（BACK TO BASICS）」というテーマで、南米コロンビアのカルタヘナ市に世界19ヵ国より約40人の評議員が集まり、10月9日（日）から13日（木）までの5日間開かれました。

カルタヘナ市はコロンビアのカリブ海に面し、スペイン帝国華やかかりしころに、インカ帝国の黄金を本国に送り出し、その財宝をカリブの海賊から守るための壮大な城壁を誇る古い港町という側面と、観光客が訪れるホテルの立ち並ぶリゾート地としての側面をもった街です。日本からはずいぶん遠いところで、われわれも成田—ニューヨーク—マイマミ（1泊）—カルタヘナと飛行機3本を乗り換えました。カルタヘナ市で持たれた意味は、参加国の構成が、アメリカ/カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ、日本を除き、ヨーロッパ諸国と中南米諸国がほとんどを占め、とくにラテン・アメリカ諸国でのAAの発展は目覚ましいことにあると思います。会議では英語とスペイン語が用いられ、同時通訳がつかまりました。

さて、カルタヘナ空港を一步出ると、いきなり現地の人々がわっと寄って来て、勝手に荷物をタクシーに詰めてしまいました。メーターのないタクシーで会場のヒルトンホテルに到着し、運転手の言い値で5ドル払い、現地の歓迎係の人たちの出迎えを受けて、やっと一安心。その晩は、庭での夕食会が華やかに行われました。

翌日第一日の最初に、赤いボールを転がして、それが止まった人が話す形式の、恒例の「レッドポー

ル・ミーティング」が行われました。3回目に私のところにさっそく止まってしまい、まず何とか英語で話すことができました。大会場に移っての開会式では、日本の後期評議員が会議の目的を立派に朗読しました。

今回のテーマは、激動する現代社会の中で、AAの基本をもう一度考えようという趣旨です。アルコールリズムの広がり、若年者・女性・高齢者・同性愛者に広がってきたり、他の嗜癖行動（薬物、摂食障害、ギャンブルなど）を持っているAAメンバーも増えてきました。また、さまざまな嗜癖や問題を持った人々によっていろいろなアノニマス・グループが作られています（NA、GA、OAなど）が、それらとAAの関係も話題になりました。医療・治療施設や社会福祉サービスとの関係も複雑化してきています。パソコンを用いたミーティングをAAのフェロシップの中でどう位置づけるかも話し合われました。そして、AAが発展するにつれてサービス全体について、各国の経験を分かち合う必要も増えています。こうしたテーマを軸に、各国からの報告、メイン会場でのテーマに基づいたスピーチと分かち合い、10名ほどの小人数に分かれてのワークショップが、5日間、特に中間の3日間は朝9時より午後9時半まで熱心に行われます。AAの生き方を実践しているメンバーたちが、与えられたテーマを自分の経験によって深め、堂々とスピーチしている姿がとても印象的でした。また、冬の長い北欧諸国、社会情勢の激変した東欧（ドイツ、ポーランド）や南アフリカ、AAの目覚ましい発展が見られるラテン・アメリカ、アジア・オセアニア地域のサービスミーティングの開催に燃える日本とニュージーランド、そして長く膨大な経験を持っているアメリカ/カナダなど各国のAAの報告は居ながらにして世界を駆けめぐらぬ気分になり、世界中でAAがまだ苦しんでいるアルコールに、メッセージを運ぶというひとつの目的に向かっている情景が目につかん

できました。

閉会式では参加メンバーが軸になって手をつなぎ、各国語で「平安の祈り」を唱え、私も日本語で祈らせていただきました。すべての日程が終わった夜のパーティーでは現地の楽団に合わせて、夫婦で参加をしていたメンバーたちがカップルで踊っていました。それはソプラエティの喜びがいっぱいに表現された夜でした。

世界のAAメンバーと共通の問題を話し合い、たくさんの分かち合いを行うことのできた今回の旅は私にとって実り大きな旅でした。この大きな祝福を日本の皆様にも伝えていきたいと思っています。

.....

### WSM後期評議員 アキヨ・M

前回のニューヨークでは女性評議員は日本からの2名だけだったが、今回は5名も参加があり、華やかな感じがした。会場では実行委員をはじめ、ニューヨークGSOのなつかしいスタッフの方々、そして現地コロンビアの歓迎係の人達の手厚いおもてなしを受けて、19時間半の二日かりの旅の疲れも取れ、心なごやかに交流が深められた。

今回のテーマは「基本に帰ろう」である。AAの中ではとても大切な議題ばかりが組み込まれており、以下のことを中心に各々の経験を分かち合った。

(詳細は報告書にて)

#### 《主なプレゼンテーション》

- ・アノニミティについて(3項目)
- ・スポンサーシップは心からの言葉(4項目)
- ・変わりゆく世界の中での伝統とは(4項目)
- ・サービスとは(3項目)
- ・AA—霊的プログラム(2項目)
- ・国際出版基金について(ジョージD)

#### 《ワークショップ》

- ・出版(文書)—基本的な道具・各国間の交流
- ・アノニミティとは・自由テーマ

#### 《委員会》

議事委員会・文書/出版委員会・方針/採用/財務委員会・一緒にやろう委員会

#### 《各国からの報告》

《全体会議—WSMの参加の資格など》

このうちワークショップの自由テーマのなかで論じられた、今身近に起こっている問題を紹介したい。  
\*特別なグループについて—パソコン・ミーティング：情報社会の中では非常に興味のあるやり方であり、パソコンそのものは分かち合いの優秀な道具として、ハンディキャップのある人、耳の不自由な人に必要であり、役立っていると思われるが、ローンナーグループに例えられるように、個人的な分かち合いに過ぎないものである。グループとしては、伝統1、2、6、7、11、12、と引用しても、やはりグループの良心、アノニミティが破られる恐れ等がある。老若男女が一堂に会してこそAAミーティング、グループということが出来る。大方がこのような意見に同意した。

\*ビッグブック・スタディ・グループとは：今アメリカで大人気のこのグループをAAグループとして認めるにあたっては、大方が反対の見解を出した。ウィークエンドセミナーと称し、料金を取らてメンバーの参加を募り、講師あるいは説明役としてビッグブックを教えるやり方は問題だろう。やはり霊的な要素である分かち合いにはならないとの見解が出されたが、反面、ある意味では一体性を強めるAAの出版物へ特別な関心を引きつけることができ、実際的な効果も出ているとのことである。これは一つに本を売る目的もあるとのことだった。

\*特定の仲間たちだけの集まりは本来のAAグループではない：女性やヤングのためのミーティングを特別グループと呼んでいるところもあるが、ミーティングの名称をどうするかはその国独自の決め方がある。大事なことはAAはAAだということ。AAは老若男女だれに対しても扉を開けているのである。

\*各国間の交流の中で：来春20周年の前日、3月23日に日本で初めてアジア・オセアニア地域へ愛の手を差し伸べるためのサービスミーティングが開かれる旨を報告したとき、それはもう各国から、喜びの拍手と「すばらしい！」という支援の言葉を浴びた。私に与えられたこの使命と偉大な賜物に対して、これほど強く感謝の気持ちを感じたことはない。日本の仲間の方々、心から心からありがとう。

“ムーチョ グラシエラス リンダ！”

### ——アメリカサンディエゴ——

## AA 60周年国際コンベンション参加ツアーのお知らせ

☆ 1995年6月28日 17:20 成田出発 ~ 7月4日 16:15 成田帰着

ホリデイイン・ハーバービュー 5泊(宿泊代含む)

¥139,000.-

募集人員 先着100名様まで

(関西国際空港からの便もあります。詳細はJSOにお問い合わせ下さい)



## 特集

# AA愛媛ワークショップ

### ワークショップを終えて

高知県のAAの歴史は長い。そして香川県でも丸亀グループが仲間の来るのを待っています。

我々の願いは、四国全土でまだ苦しんでいる多くの人達に、アルコールリズムから回復するAAの方法について紹介することでした。

昨年、沖縄那覇と北海道札幌で同じような趣旨でワークショップを開き、JSOでも愛媛でもその必要性を痛感し、中四国AAの熱心なサポートのもとに開かれる運びとなりました。沖縄でもそうであったが、県の精神保健センターを、所長のご厚意によりお借りすることができ、四国や中国、また関西や九州の関係者や仲間と愛媛県の松山で会うことになったのは、画期的なことでした。

プログラムは、一日目をAAの話の関係者に聞いて貰おうと、パブリックミニティングという名前で「病氣と回復」という概念や、回復のための「12のステップ」とグループ運営のための「12の伝統」について聞いていただいた。

AAのプログラムに詳しい方々が多かったが、皆熱心に耳を傾けていただいたが、仮に開くAAミーティングをモデルミーティングと言っているが、そのミーティングはやはり仲間の分かち合いという、AAの神髄を伝えてくれて、圧巻だった。

二日目はステップと伝統について各地の仲間たちと分かち合った後、JSOから最近のAAサービス活動について報告をおこなった。

ところで、AAに命令はありません。しかしAAにとって一体性は不可欠で、全国のグループに代議員を登録して貰い、活字による同一の情報を北海道から沖縄まで、同時に、その代議員を通じて提供する方法は、この一体性を保つ上で大きな役目を果たしています。

しかし活字だけでは十分な理解は期待出来ないこともあり、ときには誤解も生みます。昨年からの沖縄、北海道、そして今回の愛媛と続いたJSO主催のワークショップが、日本AAの有機的な分かち合いを進めていくためにも、大きな効果があったと思います。今後もこのワークショップが続けられていくことを願っています。

JSO 林



### 感謝、感謝AA愛媛ワークショップ

AAにつながってまだ半年にもならず、しかも入院中です。よく入退院の繰り返しと聞いたりしますが、私の場合はアル中になってから現在の病院に巡り会えるまで十余年。今はここで教育と回復のための訓練をさせてもらって、まさに「アルコール大学病院」に入学したようです。

AAは宗教的と自分勝手に決め、あれほど神様に抵抗を持っていた私が、なぜか、だんだんとAAの方に傾いていきました。正常に戻って幸せになるうとしている仲間から特に親しくしてもらい、惜しみない励ましのお言葉を聞き、そんな付き合いを大切にしてきたからだと思います。

そんな中、隣県で行われたAAワークショップへの参加が私にとって大変な手助けとなり、勇気づけられたのは言うまでもありません。ハンドブックはもちろん、円に三角のマークの入ったAAに関する資料は全ておろそかにすまいと自分に言い聞かせました。今回は初心の私にとって、もってこいのワークショップとなったのです。この二日間、「そうだったのか、そういう意味合いがあったのか」と初めて触れる新鮮な話ばかりで、オープンとクロズドの相違、アノニシティについて、スポンサーシップ、AAの献金のゆくえ、他の自助グループとAAとの相違点、等々、得るものはキリがありませんでした。また勇気ある質問をした人もいましたが、それは酒を何が何でもやめたいという強い願望の現われだと感じさせてくれました。また、若くしてAAにつながった仲間たちの話に「早い時期に問題飲酒に気づいて良かったなァ。そのままの気持ちで頑張り！」と心より祈る私でしたが、彼らを羨ましく思ったりもしました。とにかく初めてのワークショップに参加することにより、自分なりのAAに対する知識が素直に改められ、新たに正しい解釈で受け入れることができ、私にとって本当に勉強となり意義ある二日間でした。

言うまでもなく関係者の方々、また仲間たちにも本当に感謝しております。ありがとうございました。

高知 G. ワコー

### AA愛媛パブリックミーティング

1994年10月21日。朝5時起床。タクシーで高知駅に到着後、7時の高速バスで松山に向かう。沖縄に続いて昨年8月の地域集会で決定したJSO

主催のパブリックミーティングにはJ S Oからどんなメンバーが来てくれるのかと期待でいっぱいでした。中四国セントラルオフィスのスタッフと落ち合い、空港にJ S Oスタッフを迎えに行くことになりました。スタッフは林さん一人と聞いて私は一瞬気が抜かれる思いがしましたが、今年のG S Mで、J S Oの行事予定や財政の事を聞いておりましたので、皆で全力投球でやるしかないと思直しました。

6時10分着の便が30分遅れ、私は到着口で、オフィススタッフは車の中で、待つことにしましたが、この30分が大きく私の考えを変えてくれました。昨年8月以来実行委員に名を連ねておりながら一度の打ち合わせもしていなかったこと、現地に一度も足を運ばなかったこと、J S O主催だから全くJ S Oがしてくれると考えていたこと、セントラルオフィスからの連絡で全てが間違いなく実行できていることを知って依存心が私の中で無意識に生まれたことのために自分から積極的に具体的な提案行動を取っていなかったのです。だから自分で責任を引き受けていかなければならないのだと考えることができました。

林さんを迎え宿舎に帰り、夕食後宿泊者12名で11時過ぎまでミーティングを行ない、明日の予定を打ち合わせて眠りましたが、会場の確認がまだのことや、地図がミスプリントであったことを考えると、なかなか眠れませんでした。

10月22日(土)天気晴。宿舎を早朝7時に出発。会場にはあっけない程早く到着し、早速会場づくりに取り掛かりました。精神衛生センターの所長さんも休日にかかわらず朝の8時半には来て下さり最後まで御協力戴き、大変有難く思いました。10時ごろにはだんだんと参加者が集まってきましたが、地図がミスプリントのため、私は終日受付でお詫びをしました。多くの方は苦情どころか、笑って励ましてくれました。こうして多くの方々の話が聞けることに比べたら、それぐらいのミスは大したことではないと言ってくださった先生もおられました。

ワークショップが始ってみると、いろいろな不備にもかかわらず、メンバーは遠く沖縄から大分、福岡、明石、島根、京都、山口、宇部、尾道、岡山、高知と集まってくれました。地元のクリニック関係から紹介されて来てくれた人も10数名。グループのビジネスミーティングや中四国の地域集会で、将来に向けた具体的なサービス対策を打ち出さなければと考えております。そのため10月には広島市の病院内の院内ミーティングに行きましたし、山口県の打ち合わせ会にも出席させて戴きました。12月の地



域集会にはオブザーバーが2、3人参加するよう話を進めておりますし、私自身は島根オープンにも参加予定です。

以上、実行委員として不手際でしたが、関係協力者のご好意と共に、J S Oやメンバーの協力があり、無事に松山ワークショップを終了することができました。感謝しています。みなさま、ありがとうございました。  
実行委員 H . D

### 松山のワークショップに参加して

病院を退院してAAにつながる事が出来て2ヵ月足らずですが、その間に色々な事がありました。時間の経つのが早かったのか遅かったのか、自分でもよくは判らないのですが、多くの仲間へアドバイスをもらったり、助けてもらったりして今日に至っています。

オープンスピーカーズミーティングや関西ラウンドアップ、この度の松山でのワークショップなど、数多くのイベントに参加でき、新しい生き方が始まったんだということを実感しています。

その中でも「松山で行なわれたワークショップに参加できた」という事が大変な喜びとなっています。というのも、松山という街は自分が5才の頃から住んでいた街であり、自分を形成する上でも大きな影響を受けた街だという思いで、どうしても一度行っておかなくてはならないという気持ちがあったからです。松山の街に立って改めて「自分はアルコールから切れたんだなあ！」との感じ。半年前の布団にくるまってグラスと向き合っていた頃の自分が何か遠い昔のように思えて信じられない気持ちでした。

また港から乗った電車の中から普通っていた校舎を見、登校途中の学生を見て、自分がまだアルコールに侵されていなかった頃の姿をオーバーラップさせたりと様々な感情が湧き上がってきました。

今、こうして健康な体でいる喜びと、これから先の人生に向かっていく勇気の両方を持つ事が出来ているのは、AAが与えてくれた「飲まない生き方」と「仲間が与えてくれる力」のお蔭である事をとて感謝して、これからもグループにしっかりつながっていく気持ちを大事にしていこうと思っています

(BUG)